



－ 石岡イタリアンの名店 －



人気 No1 牛ハラミステーキ

グラノ風ポテサラ



暑いですね！こんな時はイタリアンバルでも行って、パスタとステーキでクラフトコーラをがぶ飲みしよっかな！という分けで今回は、もはや石岡イタリアンの名店と言える「グラノ」のご紹介です！石岡駅並びのかんばん横丁から、駅から徒歩5分、御幸通り沿いに移転しました。店内も広く、席数も30名以上入れます。今回実は会社の暑気払いで行ったのですが、結構余裕がありました！肝心の食レポですが、必要ですか？名店ですよ？味は折り紙付きです。改めて美味しいなと感じた3種を挙げますと、牛ハラミステーキ、巣ごもりカルボナーラ、トリュフのグラノ風ポテサラ。その他のパスタやピザ、何を頂いても無論美味しいのですが、この3種は自分の中で格別です！駐車場のご用意はありませんが、近隣にコインパーキングはたくさんありますので、是非皆さんお気軽に足を運んで、ご賞味頂きたいです！

グラノ

【住所】石岡市府中1-2-5

営業時間：16:30～23:00

定休日：水曜日

(石岡のおまつり期間、とその後期間は通常営業と異なります。お問合せ下さい。)

TEL: 0299-29-9204

立食なら50名まで入れます！
結婚式の2次会などお待ちしております！

公式 HP



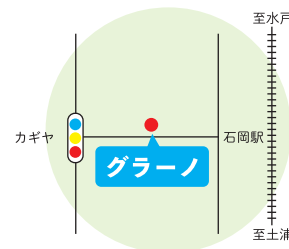
巣ごもりカルボナーラ



生ハム、オリーブなど



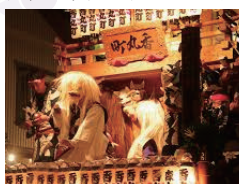
カルパッチョ



暑気払いの精神と、変革を恐れぬ前向きな心。保存会を中心にこれからも故郷・石岡の祭礼文化が継承され、発展していくことを切に願う。

常陸國總社宮の例大祭が石岡市の無形民俗文化財になって間もなく4年になる。文化財の保護団体であり、祭礼の主催者でもあるのが「常陸國總社宮祭礼の獅子・山車・さら保存会（以下、保存会）」だ。氏子36町はもちろん、祭礼に関わる各団体が集い、様々な事業を行っている。毎月行われている常任理事会や、祭礼直前に全町を集めて行われる理事会（全体会議）の運営はもちろんのこと、文化財指定のための要望活動や、観光的なPRなどその役目は多岐にわたる。また、見えないところでは広範囲の交通規制を敷いてもらうための警察署との協議、獅子・山車・さらという出し物（祭礼風流）が巡行するための道路使用許可のとりまとめ、街商組合との折衝などもある。

本年の年番 香丸の山車



おまつりの案内



石岡市観光協会

保存会では祭礼を国指定文化財に指定する、という大きな目標を掲げている。今回の調査報告書が完成すれば、そこまでの大きなステップ、茨城県の文化財に指定される道筋が大きく開けるだろう。今年は昭和100年、戦後80年の大きな節目の年だ。戦争中は出し物が出せない事もあり、コロナ禍では神輿を出せないこともあった。しかし大きな視野でみれば、この100年間で例大祭は大きく発展してきたと言える。36もの氏子町内が合計40台を超える祭礼風流を出し、それぞれが一堂に会する見せ場も出来た。それでいて伝統ある神事はその精神を変えることなく続けられている。



御分霊を遷す大神輿。年番町までお越し頂く。

特別寄稿

石岡祭時記

和リノベーション

日本家屋の内装 / 水廻りを準洋風へ



担当の大和田です。

小美玉市のM様邸は立派な昔ながらの日本家屋です。この日本家屋の特徴を生かしながら、現代の高機能で使いやすい準洋風へとリノベーションを行いました。具体的には以下のご要望を頂きました。



浴室フルリフォーム



キッチン、リビング



内窓設置 (断熱)

- ・新しくキレイなお風呂に入りたい
- ・キッチンを使いやすくしたい
- ・トイレを新しくしたい
- ・居室の内装をキレイにしたい
- ・省エネのサッシにしたい



日本家屋はとかく断熱性能が低いので内窓の設置も大変喜んで頂けました。水廻りを全改修した他、給湯給水設備も今回一新しました。浄水された美味しい水を使用してお料理にも使用することで、より良い日々を営まれております。

イバセキまで
是非お問い合わせください♪
☎ 0120-41-2680



トイレリフォーム



玄関の扉



脱衣所、洗面台

お知らせ

「令和7年度茨城県LPガス料金負担軽減支援事業」

茨城県より一般家庭に対してLPガス料金の補助が入ります。9月ご利用分に対して一世帯一律400円の値引き(税別)となります。10月の検針票に記載致しますので、ご確認ください。

ふるさと紀行

『笠間稲荷神社』



笠間稲荷神社拝殿の様子

茨城県笠間市の『笠間稲荷神社』は、日本三大稲荷の一つに数えられ、全国から多くの参拝者を集める関東屈指の稲荷信仰の聖地とされる。笠間の市内中心地に広がる広大な境内には、朱塗りの楼門や社殿が、訪れる人々を神秘的な佇まいで迎えている。主祭神は宇迦之御魂神で、『古事記』に五穀豊穡を司る神として記されており、稲作や産業の守護神として古来より信仰を集めてきた。

創建は白雉2年(651)とされ、常陸国風土記の「稲峰」の地名記載からも、古代より稲荷信仰の源流があった。平安時代には地元豪族の庇護を受け、鎌倉時代には、笠間氏が社領寄進。室町から戦国にかけては佐竹氏ら領主の手厚い崇敬を受け、社殿が拡充された。

江戸時代になると笠間藩主の松平氏、田村氏らの寄進が相次ぎ、石鳥居や拝殿、石灯籠が整備され、庶民信仰が一層深まっていた。安政6年(1855)には、現存する本殿の原形となる桃山様式の大改築が行われ、欄間の龍や獅子など豪華絢爛な彫刻が施された。幕末の廃仏毀釈で観音堂は失われたが、稲荷信仰のみが厚く守り続けられた。江戸末期には笠間藩主が江戸にも分社を設置し、現在の東京別社は、日本橋浜町に鎮座する。大正期には市川にも分祀され、東京都内でも笠間稲荷信仰が広がっていた。

明治6年(1873)には旧社地から現在の場所へ遷座した。大正12年(1923)には関東大震災、その後、昭和20年(1945)の戦災で社殿が焼失するも、昭和28年(1953)本殿、昭和33年(1958)拝殿・社務所が再建され、昭和53年(1978)には楼門が完成した。昭和63年(1988)には江戸末期の桃山彫刻を伝える本殿が国の重要文化財に指定された。

笠間稲荷神社への信仰は農家のみならず商工業者や地域住民にも広がり、多くの参拝客が訪れている。今日も稲作に根ざした信仰の息吹を伝え、訪れる人々に豊かな実りと平穏を祈念させる鎮守の杜として輝き続けている。